



YMCA

月刊 The YMCA 付録
 編集・発行 / 日本 YMCA 同盟 東京都新宿区本郷町7番地
 大阪青年 発行：錦織一郎 編集：大阪 YMCA 広報室
 〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6
 TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297
 URL: http://www.osakaymca.or.jp/
 (年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

大阪青年 2006 Oct. 10 No. 588

2006年度大阪YMCA年間聖句
 「愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。」
 (ヨハネの手紙1 4章7節)

大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

多様性に出会い 共に生きる YMCA日本語学校



屋台を出店し国際交流！(昨年のとさぼりカーニバルにて)

副総主事 **田中真一** (なかしんいち)

21世紀のグローバル社会の特徴のひとつは、人の移動、移住がこれまでにないスピードと量でもって世界全体で興っていることです。人が移動、移住する理由はさまざまですが、仕事(就職、異動、転職)、結婚、教育(高等教育進学、職業教育、外国語学習)と、これまではその国の内部で起こっていた人生の転換点となる出来事が国境を越えて地球規模で展開され、国際的な人の流れが加速していることです。日本にも新たな生活の場を求めてやってくる人々が増えています。このことは私たちが暮らす地域社会のなかで、文化的背景の異なった者同士が生活者として「良き隣人」の関係を築いていくことが急務であることを意味します。日本語学校は外国からやってくる新たな住民と日本

社会との結節点に位置しています。大阪YMCAの2つの日本語学校(大阪YMCA国際専門学校日本語学科、大阪YMCA学院日本語学科)では、現在約400名の人々が日本語を学んでいます。その多くは海外22の国と地域からの留学生ですが、国際結婚、就職や転勤で来阪した本人およびその家族などニューカマーといわれる学習者が増えています。また、日本人海外帰国子女の人たちも日本語を学んでおり、学習者の多様化が進んでいます。

YMCA日本語学校での教育は、日本語学習や進路支援はもちろんのこと、日本での日常生活へのオリエンテーション(ゴミの出し方や大声を出さないなど生活のルール、マナー等)やその根底にある日本文化への理解、また学習者それぞれの母文化を尊重することなど、教室の内外のあらゆる場面でなされています。それでも多様な文化背景をもつ学習者が集まった教室、学校の中だけでも、さまざまなおコンフリクト(摩擦、衝突)が起こっています。しかし、このコンフリクトこそが「出会い」であり、共に生きていく社会への入口であると考えています。

YMCA日本語学校では、YMCA会員・ボランティアの方々、いわゆる一般の日本人との交流、協働の機会を大切にしています。海外からの学習者にとってYMCA会員・ボランティアとの交流は日本人との出会いです。また、クリスマス献金街頭募金やYMCAボランティア活動へ参加することにより、学生が「自分は海外からのお客様ではなく、地域社会を支えるひとりの担い手である」ことを感じてもらいたいと願っています。

YMCAの日本語学校は多様化していく地域社会のなかで、一緒に働いていく仲間を育んでいきたいと願っています。

地の塩

「憎しみ、争い、戦いやみ、真理と平和が、世界に満ち、主の義と愛の支配する日、与えてください、私たちに。」賛美歌21・5 62番4節

▼ちよんどう一年前、広島で世界の人々に「平和のメッセージ」を発信するとう集まりがありました。昨年は広島・長崎の被爆から60年。大きな節目となったこの年に、世界的指揮者の小澤征爾氏、文化勲章受賞者の日野原重明氏のお二人が、企画した集会でした。この集まりに参加する機会を得ました▼日野原さんは小澤さんの主治医。日野原さんの平和希求のメッセージ朗読、小澤さん指揮によるFaure作曲「レクイエム」の大合唱があり、7千人以上の人々が集まりました▼原爆で亡くなられた多くの人々の霊に対する鎮魂と平和のための人間賛歌でした。真の「平和の実現」を子どもたちと共に始めたい、と日野原さんは訴えておられました▼その祈り、そして、訴えもむなし、相変わらず、世界では「平和への脅威」が続いています▼私たちのYMCAでも、世界各地で自分たちの抱える問題で精一杯です。他の宗教、民族との対話、そして理解はあまり進んでいません。イスラム世界のことを、私たちはどの程度知っているのでしょうか▼無知が大きな不安、憎悪を生んでいます。同志社大学の一神教学際研究センターでは、他宗教との対話からの平和実現を目指し、一神教の学際的・総合的研究や講演を行うなど新しい試みを進めています。私たちもより関心を持つことで、平和実現のための更なる試みを進めましょう。

(寛)